

2022年度 日本工学院専門学校											
デザイン科 プロダクトデザイン専攻											
プロダクトデザイン実習 1											
対象	2 年次	開講期		区分	必修	種別	実習	時間数	60	単位	2
担当教員	明石 竜太郎			実務経験	有	職種	陶芸家				
担当教員紹介											
自身での陶芸工房を構え、個展を中心に活動。陶芸教室を運営し、デザイン、陶芸、木工、デッサン等の物作り実習の指導経験を持つ。											
授業概要											
この科目を受講する学生は、工業、家具製品の商品企画を行い、技術とノウハウを修得します。これから経験していく仕事の現場で、役に立つものづくりの実践的な実習から学び、素材、道具の正しい選び方、使い方を理解し、身に着けるようになる。プロダクトデザインの「商品企画」に関連するプロセスを理解し、デザイン提案をする際に必要な能力を積極的に学び、実践できるようになるのがねらいである。											
到達目標											
この科目では、学生が、商品企画に取組むことでプロダクトデザインをプロセスから学び、アイデアスケッチ・立体モデルの制作・図案の作成・提案モデルの制作・モデルの撮影・プレゼンボード制作・プレゼンテーションと提案型デザイン手法で、検証を重ねながら試作し、プロダクトデザイナーの仕事を理解して、デザインの現場で活躍するために必要な技術や知識を向上させること、段階的に 素材 の選択、サイズの決定、カラーの選択、仕上げの選択を考慮して、商品提案ができるようになることを目標にしている。											
授業方法											
道具の使い方から素材の特性、デザインの適正など製品が出来る一連の流れを実習を通して学ぶ授業です。講師のデモンストレーションから学びを深め、学生の「プロダクトデザインの提案力」を育成していく。この授業に主体的に参加する学生が、自分の「プロダクトデザインの総合的能力」を自分自身の実践し、活用できるようになることを目指す。											
成績評価方法											
プレゼン	20%	製作物の発表方法、内容									
課題完成度	40%	クオリティ・提出期限厳守									
リサーチ	20%	製作準備と過程									
平常点	20%	積極的姿勢・周囲のサポート									
履修上の注意											
この授業では、より高度な実習として学生に工業製品が出来る一連の流れを、実習を通して学び、プロダクトデザインに触れてもらう機会になります。授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者はこの科目合格することができない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	タイルのデザイン実習 タイルのアイディアを練る										
第2回	タイルのデザイン実習 実寸の製図を描く										
第3回	タイルのデザイン実習 モデル試作										
第4回	タイルのデザイン実習 モデル試作										
第5回	タイルのデザイン実習 原形を作る										

2022年度 日本工学院専門学校	
デザイン科 プロダクトデザイン専攻	
プロダクトデザイン実習 1	
第6回	タイルのデザイン実習 シリコン型を作る
第7回	タイルのデザイン実習 石膏を流し込む
第8回	タイルのデザイン実習 石膏を流し込む
第9回	タイルのデザイン実習 外枠を作り組んだ石膏を枠に合わせて切る
第10回	作品撮影
第11回	タイルのデザイン実習 ボード作り
第12回	タイルのデザイン実習 ボード作り
第13回	作品批評：プレゼンテーション ボード提出
第14回	作品再提出：講評を反映させて A4ボードデータ提出 2回目
第15回	プレ展示会：展示物として展示方法と演出の指導